

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者の方々が、その人らしく笑顔で生活できるよう、地域資源を活用し支援していくことを理念とし、日々取り組んでいる。また、職員一人ひとりが共有できるよう、理念を掲示している。	グループホーム独自の理念があり、さらに目標も作られており、食堂やグループホーム入口に掲げられている。理念にそぐわない言動については会議で検討し、職員の意見を聞きながら話し合っている。利用開始時に利用者や家族に理念やホームの目標を説明している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	複合施設の特性を活かし、DS利用の知人と会う機会があったり、運営推進会議で、地域の行事・イベントの情報を得て参加。地域の小学校、教会、保育園との交流を行っている。	軽井沢で生まれ、育ち、現在まで生活の基盤が軽井沢という方が多くいる中で、併設のデイサービスや特別養護老人ホームの利用者にも顔見知りが多く、お互い行き来している。傾聴ボラ、ハンドマッサージ、フラダンス、琴、日常の介助ボラ等、ボランティアの来訪も多い。保育園や小学校との交流が長年継続されている。地域の行事には利用者と職員が積極的に参加し、複合施設合同のお祭りには地域の方々が多く参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在のところ、地域での相談会や勉強会などは行っていないが、運営推進会議を通じ地域の方々に施設を知ってもらえる見学会を計画している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3ヶ月に1回開催している運営推進会議では、ホームでの取り組み、入居者の状況説明を行い、地域の情報や意見などを話し合い、支援に活かしている。	区長、民生委員、有識者、町職員、地域包括支援センター職員で構成され定期的に行われている。今年度は利用者が委員となっていたが住み替えで退去されたので来年度からは家族の方に委員をお願いしている。ホームの状況報告等を行い、ホームから外出行事に適する場所やボランティアの手配等、相談事を投げかけ、委員の方々から意見や助言をいただき利用者の暮らしに活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月に1回町のサービス担当者会議に参加し、現状の説明、報告を行っている。その他必要に応じて連絡を取っている。	介護認定の更新や区分変更の申請代行等を行っている。認定の更新調査はホームで行うことが多く、職員も関わり情報を提供している。居室の空き等が出そうな時には町担当部署と情報交換している。昨年の敬老の日には100歳になる利用者があり、内閣総理大臣や県知事よりの表彰状が町長より手渡された。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束ゼロ」のマニュアルの設置と施設全体で研修会を開き、周知している。施錠についても、夜間以外は鍵をせず、ロビーや自室にて自由に過ごす事ができる。	複合施設玄関から入り、1階のホールの続きにグループホーム入り口がある。利用者も来訪者も自由に施設内を行き来できる。夕方になり帰宅願望の強くなる利用者がいた時には職員が時間帯で注意をしたり、見守りで対応した。ベッド柵など利用者の行動を抑制するような行為は全くなく、職員は法人の研修等で身体拘束をしないケアについて熟知し実践している。	

グループホームかるいざわ敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「虐待防止」マニュアルの設置と研修会・勉強会を開き、職員で理解を深め、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護については、法人内での研修を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約の際は、ご家族に確認を取り、不明な点について十分に説明をして理解して頂けるよう努めている。また、法人内のグループホーム会議(部会)で契約についての勉強会の開催をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会や行事の際に、ご家族と話す時間をとり、意見や要望が聞ける環境をつくっている。また、意見箱を設置し、反映に繋げている。	半数以上の方が自分の言葉でコミュニケーションが取れ、職員や利用者同士話している。家族会はないがホームでの行事には必ずお便りを郵送し家族参加を呼び掛けている。ホームへの面会や行事へ参加の際には家族よりの要望や希望を聞き業務に反映している。利用者の担当職員より電話や手紙で、近況報告も随時されている。法人の軽井沢・佐久平域内事業所合同の「おらち通信」が家族のもとへ送付され、ホームや利用者の様子が垣間でき意思疎通に役立っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回グループホーム会議を開催し意見や提案を聞く機会を作ると共に、日常的に話を聞き、施設運営等に反映させている。	カンファレンスや業務伝達事項を含む月一回の定例会がある。職員は自由に発言できる環境にある。予定されている人事考課とは別に目標シートがあり職員の自己評価を基に管理者と個別面談し、悩みや質問などを交え、提案等も行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人の規則に沿い給与や労働時間など職場の環境整備も行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人事考課制度の導入、法人内の研修への参加や自主的に研修参加を促し、働きながら学べる環境づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修、勉強会の情報回覧、周知を図り、自主的な研修参加を促し交流する機会づくりに取り組んでいる。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用前に、施設見学の実施、担当ケアマネージャーや家族と連絡をとり、ご本人の意向、不安について聞く機会を作り、ご本人が安心してサービスを受けられるよう話す機会をもち関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス内容や受ける事への不安や困っている事、要望について聞き、心配を取り除くことができるよう話し合う機会を作り、良好な関係を築けるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の意向、要望について聞き、検討・提案・相談したうえで、支援に繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常の家事作業、レク(パズル等)一緒に行い、ご本人ができる事を把握し、提供、日常生活への参加を促している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来所時・手紙等で、些細な事柄でも現状を知って頂く為報告するようにしている。また、施設内行事へのお誘いを送付し、一緒に過ごす機会を提供している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	デイサービス、特養へ散歩に出かけ知人と会う機会を作ったり、外出(買い物、花見、紅葉、温泉等)の計画を作り実施している。	音から伝わる慣わしや行事を大切にしており、お盆には盆飾り(きゅうりの馬やナスの牛)を作り、歌を唄いながら「迎え火」や「送り火」をし、お線香をあげ手を合わせたりしている。お正月に帰宅し、家族と新年を祝った方もいる。まゆ玉を作り、地元で行なわれるどんど焼きにも参加している。携帯で家族とメールのやり取りをしている利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常の家事作業、レク(歌、体操、パズル)を通じて、お互いが関わり協力して行っている環境づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も秋の外出時、茶飲み処として毎年利用させて頂いている。配食サービスを通じて、安否確認も行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎月のグループホーム会議にて、状態の変化・問題について話し合う機会をもち、本人本意のケアの検討に努めている。	「家では何もしなかったのに此処に来たら家事が出来ている」と家族が驚いているように、利用者同士の良好な関係の中で家事全般に自主的に参加している利用者がある。利用者の生活歴や家族からの話、毎日の関わりの中から思いをくみ取るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式の活用・フェイスシートにより、情報共有を行い、ご本人の生活の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアプランに応じた1日の過ごし方を通してケース記録、申し送りに記入し、朝・夕の申し送りにより現状を把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月毎にモニタリングを実施し、本人・家族に要望について伺っている。グループホーム会議にてご本人の課題について話し合い、本人に合ったプランの作成に努めている。	利用者の担当制とし、職員一人で2~3名の利用者を担当している。定例会議でカンファレンスを行い、利用者、家族の要望も聞き作成している。定期的な見直しを行い、状態が変わった場合には随時変更をかけている。来訪する家族には計画等を説明後、確認していただき、遠方の方には郵送で計画を送り、確認後返送していただいている。献立を毎日ボードに書き込んだり、交流している小学生へお礼の手紙を書くなど、できることをプランに上げ、利用前から生活の継続に向けて取り組んでいるケースもある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプラン実行表・ケース記録に、気づきを記入し、職員間で話し合い情報共有・提案し、見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入浴・外出時必要に応じて、特養・デイサービス等に協力して頂き、本人を中心にした取り組みを行っている。		

グループホームかるいざわ敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ツルヤへの買い物外出、追分で行われる行事などに参加し、地域の方々と触れ合い、楽しむことができている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診のある方は、ご家族に連れて行ってもらい、かかりつけ医の元で受診をしている。何かあった際、受診をしなければならなくなった際はご家族に相談し、またご家族で対応できるのか確認もしている。	契約時にかかりつけ医の確認をしている。協力医への変更は家族の希望により決めている。現在、在宅医療重視のかかりつけ医による往診を受けている利用者が2名ほどいる。訪問看護師も月に2回来訪している。受診は基本的に家族にお願いしているが、家族の都合で職員が付き添うこともある。歯科医による往診も行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	何か変化があった時には必ず訪看に連絡をし指示を頂いている。訪看来所時には一人ひとりの状態をお伝えし診て頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	メディカルソーシャルワーカーと連携し、入退所時の調整を行っている。また、町のサービス担当者会議において情報交換を含めた関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族への日頃の相談に加えご本人の状態とともに医療との連携の中でGHで出来る事を伝えながら意向を伺いつつ、チーム内で共有している。	「重度化対応及び終末期ケア対応指針」が作られている。開設より5名くらいの方をホームで看取っている。昨年も1名の方の看取りを行った。今後も家族、医師、職員がその都度話し合い、対応していく意向である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修委員会を中心に救命救急の研修会が定期で行われるため参加に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練(夜間・停電時の想定)を実施している。消防署の協力も頂いている。	年2回の訓練を併設の施設と合同で行っている。消防署の指導の下、利用者と職員が参加している。また、法人の全事業所で同一日同一時刻に災害想定での一斉訓練も行われ、万全を期している。複合施設の長所として緊急時には他部署の多くの職員の手が集まるようになっている。複合施設全体にスプリンクラーや煙探知機等の設備が完備され、備蓄も確保されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	優しく声を掛け本人の分かり易い言葉を選び使用するよう心掛けている。	苗字に「さん」づけを基本とし呼んでいるが、本人や家族の希望で名前に「さん」づけで呼んでいる方もいる。利用者同士が陰悪な状況の時は職員が何気なく間に入り、それぞれの自尊心を傷つけないようにしている。利用者と職員の関係がうまくいかない時は利用者の気持ちを尊重し、職員を交代させるなどの対応に心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何か行う際は「～しましょう」ではなく「～してみますか？」等疑問形にして話しかけ本人の意思を聞くようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人より、「寝たい」「部屋に行きたい」と訴えがあった時は、本人の意思を尊重し対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	離床後は必ず身だしなみを整えるようにしている。服は選べる方は自身で選んでもらい、家族の希望により、こちらで対応することもある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付けを行ってもらったり、食器洗い・食器拭きは積極的に依頼し毎日、朝・昼・夕とおこなっている。	本部の栄養課で献立が作られ職員の手で調理が行われている。下ごしらえや後片付けなど、出来る範囲で利用者も手伝っている。行事で外出した時には外食し、メニューから選んでいただいている。家族も参加する行事の中での食事会もあり、変化をつけ楽しい食事をしている。毎週月曜日の昼食は「希望メニュー」の日となっており、利用者の楽しみの一つとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	細目に水分提供を行っている。体重の増えてしまった方は、野菜を増やしたり、おやつで調整したりと工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	その方に応じて促し、見守る。出来ない方はガーゼ・仕上げ磨き等の対応をしている。		

グループホームかるいざわ敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し一人ひとりに合わせてトイレ誘導やオムツ交換を行っている。	自立されている利用者が三分の一ほどでなんらかの介助を必要としている方が多い中、トイレでの排泄に心がけている。布パンツで自立している方からリハビリパンツ使用の方、オムツ対応の方など一人ひとりに合わせた対応をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表により排便の有無を職員が把握している。毎朝定時間のトイレ誘導や散歩を行い排便を促している。栄養士の献立指示により飲食物は適正に偏りなく提供出来ている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	バイタル測定により入浴の可否を職員が判断した後、利用者一人ひとりに声掛けし、相談し合意を得た後、職員付き添いで入浴している。	基本的には1週間に2回の入浴を予定している。1日3名位の方が入浴しているが、利用者に無理のない程度に声掛けしている。利用者に好評の温泉水をタンクで浴室まで運び入浴していただいている。一般浴が出来ない方には併設特養の特殊浴槽の利用も可能である。毎年、家族も参加する日帰り温泉の企画があり、ホームとは違った温泉気分を満喫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息か活動かは一人ひとりの決定に従った対応が出来ている。居室・共用部が騒がしくならない様に心がけている。決まった時間に促しているが眠れない方にはお茶の提供や話を聞く等した後に着床を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の処方箋で目的や副作用、用法用量の理解をしている。職員による配薬、服薬の支援を行い誤薬を防止している。服用後の利用者の様子により変化の有無を確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの力を活かして調理、食器片付け、洗濯干し、洗濯たたみ、ちぎり絵、買い物等の支援を行っている。テレビ・雑誌・本・パズル・散歩等の支援が日々行われ、毎月行事計画に基づき、食事会、誕生日会、季節行事を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	戸外に散歩し外気浴をしたり、デイサービスや特養に散歩している。買い物外出や温泉、紅葉ドライブに出掛け外出もしている。西部小学校の運動会や音楽会に招待されたり、追分地区芸能祭に招待され参加している。	天候が悪い時などに広い複合施設内を歩くだけで歩行機能を維持することが出来る。天気の良い日には外に出て散歩をしたり行事の一つでもあるドライブを兼ねた買い物などにも出掛けている。日曜日はお風呂がないので買い物の時間に充てている。	

グループホームかるいざわ敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭を預かる際には、財布に入れ、現金出納帳を用いて、レシート貼付し、残金は誰が見ても分かる様にしている。外出時に希望のものを購入できるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を使用し、家族と連絡を取っている利用者もあり、手紙は本人に手渡している。本人の希望により自宅に電話をかける支援もしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掃除・整理整頓が毎日行われている。玄関、床、台所、トイレは除菌対策も施されている。テレビ音、カーテン、エアコン、換気に配慮している。季節感のある装飾品や花木を配置している。	複合施設全体の玄関を入ると大きな段飾りのお雛様が飾られていた。グループホームの中は観葉植物や金魚が泳ぐ水槽が置かれ家庭的な雰囲気である。時季にあった飾り付けがされ、インフルエンザやノロウイルスの流行が叫ばれているなか除菌に有効とされる加湿器も備えられていた。床暖房とエアコンで心地よい暖かさであった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーに座わりテレビを見たり、テーブルに就いて談話されたり出来る様に配置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具、家電品は、本人の馴染みの物を使用し、装飾小物や本人の写真飾っている。	居室には洗面台とベッドが備え付けられている。窓に面した所に机を置き、お気に入りの本と筆記用具、仏壇やテレビ等、自宅からのお気に入りの家具が持ち込まれ整理整頓がされている。100歳の方の居室には総理大臣と県知事よりの表彰状、家族と一緒に並んだ写真が飾られていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	台所の食器・器具は所定の位置に片付け、調理や片付けをしやすくしている。物干しも定位置を決め洗濯干しがし易い。通路は、歩行や車椅子の障害となる様な物を置かず、通行しやすくしている。カレンダーや時計で日時が分かり易いよう配置している。居室入口にネームプレートを付け、自分の部屋が分かる様にしている。		